

【森の里中学校】説明会における質問・意見等の概要

1 参加人数

日にち	会場	時間	参加人数
令和4年11月6日（日）	森の里中学校体育館	10時～	8人
		14時～	14人
		17時～	12人
		合計	34人

2 意見提出用紙による意見等提出件数

提出件数	9件
------	----

3 質問・意見の概要

○…質問 ●…意見・要望 △…説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等
→…質問に対する回答

※同趣旨の質問や意見については、とりまとめて記載しています。

※「質問」については、市の回答を併せて記載しています。「意見・要望」及び「説明会后、意見提出用紙等で提出された質問等」については、今後の取組の参考とさせていただきます、市の回答は記載していません。

【質問】

（取組の考え方・進め方・スケジュール）

- Q&A 2 ページで記載されている、「学級は児童・生徒数に応じて編制されるため、児童・生徒数の多寡と担任が受け持つ人数は、必ずしも関連しない」という記載について、実際には、教職員が学年単位で児童を把握していくと思うので、人数の多寡は影響しないというのは違うのではないかと思います。逆に 20 学級以上あるようなところの方が、小規模より課題が大きいのではないかと思います。学校規模よりも 1 学級当たりの人数に着目した方が良いのではないかと思います。
- 先ほども少し触れさせていただきましたが、学校の適正規模の範囲の検討に当たっては、厚木市の現状を踏まえつつ、保護者や教職員の皆様の意向も把握しながら、審議会でどの程度の規模が望ましいか検討して定めたものとなります。今回、対象となっているのが小規模な学校となりましたが、もし大規模な学校があれば、同じように課題が大きくなるものと認識しておりますので、同様に規模適正化を図っていくものとなります。

- 学校規模適正化と小中一貫教育をそれぞれ考えるという説明があったが、

一緒に考えるべきではないか。子どもたちが社会に出ていくまでの期間を9年間というスパンで考えていく必要があるのではないかと思う。学校を統廃合するのは簡単だが、主人公である子どもたちが、どういう環境で育つことが重要であるかを考えてもらいたい。

→ 学校規模適正化と小中一貫教育については、取組のねらいが異なることから、しっかりとその目的を踏まえてそれぞれに検討する必要があると考えています。ただ、方策の実施に当たっては、両者を一体的に実施する場合なども考えられますので、そこについては総合的に検討を進める必要があるものと考えています。

○ 方針策定に当たり、適正な学校の規模についてアンケート調査を実施したとあるが、どのような方を対象に実施したのか。もし、人口に比例して実施したとなると、森の里小学校のような小規模な学校の声が反映されにくかったのではないか。

→ 適正な学校規模については、児童・生徒保護者と教職員の皆様を対象にアンケート調査を実施しました。児童・生徒保護者については、全学校において各1学級を対象に実施し、回答をいただきました。教職員については全学校の校長・教頭・学年主任の3人を対象に実施し、回答をいただきました。

○ 個人として拙速な統廃合にはあまり賛成ではないが、今後の進め方について確認したい。資料内容を見ると、今後予定しているアンケートでも、この説明会と同じような資料を提示されるのではないかと思う。その結果を踏まえて意見交換を開催するとあるが、それでは今回と同じような内容になってしまうのではないかと思うが、その辺りはどうなるのか。

→ 来年予定しているアンケート調査の結果を踏まえて検討を行い、市としてある程度方策の方向性を整理したいと考えています。意見交換会では、整理した方策の方向性（案）について御意見をいただくことを想定しています。

○ もし、アンケート調査等で森の里住民の9割が統廃合に反対した場合はどうするかは考えているのか。

→ 現時点で具体的な基準等については考えてはおりませんが、方策について保護者や地域住民の方に御理解をいただけない中で強引に取組を進めるということは難しいと認識しています。そうした中において、教育行政の観点から、特に児童・生徒や未就学児の保護者の皆様の御意見・お考えをよくお聞きしたいと考えています。

○ 今後の検討に当たっては、本日の皆さんから出た意見を踏まえ、方向性を改めて検討すべきではないか。皆さんから出された意見をアンケートにも入れていただきたい。

→ 本日は、地域の学校の現状や今後の学校規模適正化の取組についての市の考え方を説明させていただいているものとなります。本日いただいた御質問や御意見も参考とさせていただき、今後の取組を進めてまいります。

○ 本日出た意見について、是非広く公表してもらいたい。他地区の人もそれを見たら賛同する人は多いのではないか。

→ 本日いただいた御意見については、市ホームページで情報提供させていただきます。

（教育環境）

○ 1学級当たりの人数を小学校は20人、中学校を30人にすれば、教育の質が向上し、教職員の負担も軽減するのではないか。

→ 学級編制については、国の法律に基づき編制し、その学級数に応じて教職員を配置することが基本的な考え方になります。本市独自に1学級当たりの人数を少人数化する場合、増加学級数に応じた教職員の配置や新たな教室の整備を市独自で確保する必要があり、こうしたことは、人材の確保や財政的な負担を考えると課題が大きいものと認識しています。そうしたことから、1学級当たりの人数については、国の基準を前提とした上で、適正規模・適正配置の取組を検討していくものです。なお、教育の質の向上や教職員負担軽減について、適正規模・適正配置の方策だけで解決する課題ではなく、様々な方面から総合的に取り組む必要があるものと認識しています。

○ 森の里地区にはボランティアで教育をできる方も多くいると思うので、そういった方がボランティアで支援することについて、何か法律的な理由により実施できないといった問題はあるか。

→ ボランティアでの教育支援について、法律的に制限が設けられているものではありません。ボランティアとの協力についてはそれぞれ学校ごとに、望ましい学校運営を考えながら判断しています。

○ 学校施設の耐用年数について、コンクリートの強度などにより耐震性能も異なってくるので、その辺りも踏まえて考えていく必要があるのではないか。また、全国的に不登校児が多いという新聞報道があったが、不登校を減らすためにも小規模な学校の方が良いのではないか。

→ 学校施設の耐用年数については、鉄筋コンクリート造については、建築年度とコンクリートの圧縮濃度を判断基準に、60 年又は 80 年に設定しています。また、不登校については、市としてはスクール・ソーシャル・ワーカーの配置等を通して、児童・生徒に寄り添った対応を進めているところです。

（地域づくり・地域コミュニティ）

○ もし統廃合を実施する場合、地区の高齢化対策などの対策を同時に進めるような具体的な考え方があるか聞きたい。

→ この取組については、市のまちづくりの方向性との整合性を図りながら取り組む必要があると認識しています。現状でも教育委員会だけでなく、まちづくり部門などと一緒に検討組織を設置して検討を行っているところです。

現時点で、具体的な方策としてお示しできるものではありませんが、方策と併せて地域コミュニティへの影響などについて検討を進め、意見交換会の際には、そうしたものを併せて御提示させていただきたいと考えています。

（その他）

○ 森の里地区は 65 歳以上の割合が高いと資料に記載があるが、地区内にはシニア向けマンションが 2 棟あり、そこに住んでいる人数も入っているとすれば、それは本来の意味の地区の高齢化の割合とは異なるのではないか。

→ 資料については、国勢調査のデータを使用しております。御意見のようなお考えもあるかとは思いますが、国をはじめとして、行政では国勢調査の結果を様々な施策の根拠データとして活用しておりますので、御理解いただければと存じます。

○ これから森の里小学校に通学することになる子どもの数を教えてもらいたい。

→ 令和 4 年 5 月 1 日現在となりますが、森の里小学校通学区域の未就学児の人数は、0 歳児が 12 人、1 歳児が 15 人、2 歳児に 17 人、3 歳児が 25 人、4 歳児が 19 人、5 歳児 20 人、6 歳児が 31 人となっています。

○ 説明資料 12 ページに小規模な学校のメリットとデメリットのアンケート結果が記載されているが、これは、それぞれ、何人が回答したものなのか。また、学校規模の偏りが大きくなるとメリットよりもデメリットが大きくなる恐れという記載があるが、これはこういったデータに基づいたものなのか。

→ まず、メリットの「教員の目が届きやすく、きめ細かな指導を受けやすい」

については、小・中学校の保護者・教職員の回答全体 1,977 件のうち 604 件、デメリットの「児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定化しやすい」については、同じく回答全体 1,817 件のうち 532 件となっています。

学校規模の偏りが大きくなるとメリットよりもデメリットが大きくなる恐れがあるという記載については、教育委員会としての見解であり、特定のデータに基づいて記載したものではありません。

○ 説明資料 11 ページで基本方針を策定とありますが、これはどのような内容なのか。

→ 方針の内容については、本日の説明資料 12 ページから 20 ページまでが基本方針でお示ししている内容となっています。

○ 学校の適正規模について、学級数で範囲が示されているが、1 学級当たりの人数は何人で考えているのか。

→ 国の学級編制基準に基づき、小学校は 1 学級当たり 35 人、中学校は 1 学級当たり 40 人を前提としています。

【意見】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- 自分自身の母校が統廃合で廃校になったが、そのときは全校で 28 人だったと記憶している。そうしたことを考えると、厚木市がこの時点で統廃合を検討するのは早いのではないかという印象を持っている。私自身が森の里小・中学校を卒業しているが、現在の環境の方が良いという実感を持っている。この環境を無くしてしまうのはもったいない。
- 学校規模適正化と学校教職員の多忙化については別の問題ではないか。一緒にするのはおかしいと思う。今後の取組に当たっては、我々の意見を十分に反映してもらいたい。
- 学校規模適正化の方策を検討するに当たり、教育的な観点に加えて、地域コミュニティや財政的な内容が記載され、様々な観点から検討するという内容になっており、検討が前進したのかなと感じる。アンケートについてもそういった様々な視点から聞いてもらいたいし、実施に当たっては事前に学校関係者等へ内容を周知してもらいたい。
- 今回の内容に学校規模適正化の話とまちづくりや財政的な話が混在してい

るので分けて考えた方が良いのではないか。両方の話がごちゃごちゃになって分かりにくくなってしまう。

- 自分自身も、この地域で生まれ育って、また、娘たちが同じ小・中学校に通っていることもあり、ものすごく思い入れのある地域で、すごく住みやすく、小規模校ならではの良さがある、統合というのはちょっと寂しい。現状では生徒数も少なくなって運動部も二つくらいしか選べないなど不安もある。そうした中で、現状に目を向けて、小規模特認校制度を導入するなどして、今の生徒たちの教育環境を充実させることにも目を向けてもらいたい。

（教育環境）

- 森の里地区については、小中一貫校にして、空いた施設は老人ホームにすればよいのではないか。
- この地区は児童・生徒数が減少してきているので、優先的対象校になるのは理解できるが、一方、この地区は、地域と小・中学校のつながりを大事にしている特色があるので、この地区の良さをいかして、少人数でも維持できるような方策を希望する。
- 森の里小学校は少人数で、地域として独特な環境があって、その良さがあると感じる。引っ越したときも学校規模が小さいこともあってすぐに馴染むことができ、良い学校だなと感じた。この地域の良さがあるので、国の画一的な基準に縛られることなく、地域の特性に合わせてやっていけばよいのではないか。また学校が統廃合になった場合、その後更に人口が減ってしまうかなどの情報も提供してもらいたい。
- 現在の小学校は小規模ということもあって、児童は地域の大人たちから大事にしてもらえる環境なので恵まれているなと感じている。またPTA活動についても、小・中学校ともに保護者の中から、できる人ができるときにお手伝いするという形になっているので、特にデメリットにはなっていないと思う。学校規模によって子どもたちの幸福感や自己肯定感にどの程度影響を及ぼすのかも教えてもらいたい。
- 少人数学級を進めれば、学級数が増えて、学校規模適正化の方策をとる必要はないと思うので、こちらを進めてもらいたい。

- やはりそれぞれの地区に学校は必要。私も教育現場にいたので、小学校だと学年当たり 3 学級程度、中学校なら 4 学級程度が適当だということもわかる。ただ、だからといって、簡単にそうすればよいというものではない。やはり子どもたちは地域で育つことが重要であり、そういったアイデンティティを育てるのが教育なのではないか。地域ごとの良さにもっと着目してもらいたい。森の里だったら小中一貫校がいいのではないかな。
- 教職員が少ないということについて、教員は人を育てる大切な職業であり、やりがいのある仕事だと思うので、教職員を希望する人も多いはず。教職員を増やすことで、小規模な学校を実現すれば、新たな方向性が出るのではないかな。

（通学関係）

- 望ましい通学距離・時間の上限について、小学校の低学年と高学年で歩く速度は全く異なるのではないかな。都心の自治体だと小学生は分速 40m、中学生は分速 60m で換算している例もあるので、もう少し精査してほしい。
また、地形的に急こう配があったり、雨が降ったり、雪が降ったりなどの悪天候もあるので、その辺りも考えておく必要がある。また、この地区には高校もあって自転車通学している人もいるので、そういった中を通学する危険性もあるので、全般的にもう少し精査してもらいたい。また、玉川中学校前の歩道は見通しが良くないが、信号が設置されていない。今現在の通学路でも危険な箇所があるのでその辺りも調査して結果を公表してもらいたい。
将来的に 30～40 年経って更に人数が減ってしまった場合を考えると、森の里については、いつか統合しなければならぬだろうなという気はしているので、適正な通学時間・距離や通学負担軽減策が取られるのなら賛成である。時間の問題だろうとは思う。

（地域づくり・地域コミュニティ）

- 最近、森の里地区にコンスタントに移住してきていると感じる。市でも森の里に注目してもらい、人を増やすための施策を実施してほしい。自然豊かで近くに小学校や中学校があって、子育てするにも本当に環境的にすごく理想的な場所だと思う。もし、学校がなくなれば、子どもも引っ越してこなくなつて、そうすると、地域の高齢化が進み、10 年とか 20 年後にはもう高齢者しかいない地区になってしまう可能性もあるので、市には是非地区の開発を進めてもらい、子どもを増やしてもらえれば、学校を無くさなくてもよくなるのではないかな。

- 学校が統廃合されて、学校がなくなるとこの地区に引っ越してくる人もいなくなるし、この地区から出て行ってしまう人も増えるのではないかと思う。確かに先ほどの意見にもあったが、時間の問題なのかもしれないが、学校を無くすのは10年でも20年でも先にしてもらいたい。効果は限定されるかもしれないが、小規模特認校制度を導入するなどして、モデル校として他の地域から通学してもらうような施策を考えてもらいたい。
また、アンケートを実施することだが、アンケートの内容が恣意的にならないようにしてもらいたい
- 地域の特徴をいかした学校づくり・地域づくりがあっても良いのではないか。
- 森の里地区は、住宅街で公園など自然が豊かで、高度な研究機関も立地するような、子育てには最適な環境。こうした特性をいかすために学校を残してもらいたい。
- 森の里地区が整備されて30年が経過し、残念ながら在住者は高齢化している。そうした中で住宅地である森の里地区に子どもの声が聞こえないというのは非常に寂しい。だから、この場所に小中一貫校でもいいから存続するように取り組んでももらいたい。子どもの声が聞こえることはとても大事なことで、まちづくりの一環として考えるべきであり、数字だけで統廃合を考えるのは間違っていると思う。
- 学校規模適正化について、学校選択制や小規模特認校制度の取組を平成の頃から実施していて、その意味は理解できるが、今回出された提案は統廃合ありきで、その内容も一般論に感じる。財政的な観点からはこの取組は正しいと思うが、地域性というものが考慮されていない。この地区は周りに山もあるので、開発して人口を増やすことも難しい。そうすると伊勢原市の日向地域と一緒にあって、人口誘導を考えるなどのまちづくりを考えてもよいのではないか。人口減少社会において地域を維持するためにも教育的な視点に加えて、そうした視点をもった取組を提案してもらいたい。
- 住民の立場で言えば、こういう内容は撤回してほしい。対案として、小規模な学校に対してどのような教育を進めていくのかを示してほしい。市内の地理的な状況なども考慮して、地域の活性化などの観点も踏まえながら検討してもらいたい。

- 説明内容自体は非常によくまとめられているし、理解もできるが、統廃合ありきというところに非常に違和感があるし、不愉快である。

森の里地区でこれまで行われてきた地域での教育という財産をないがしろにされているように感じる。

森の里地区は地域づくりに意識が高く、防災や行事などにも積極的に取り組んでいるので、その辺りも理解してもらいたい。

(その他)

- 市の新庁舎の建設に多額の費用を掛けている。建設に掛ける予算があるなら教育にもっと予算を掛けるべき。
- 玉川も森の里も現状維持でよいと思うので、どうしたら児童・生徒数を増やせるのか考えるべき。不登校が多くなって悩んでいる保護者も多いと思う。森の里は少人数でそうした課題にも上手く対応できているのではないかな。そうしたことを多くの人が知れば、移住してくる人も増えるのではないかな。空き家対策とも連携させて取り組めば移住の問題も状況が変わってくるのではないかな。
- 市は、子どもたちが増えるような施策を実施してもらいたい。兵庫県の明石市で実施しているような施策をすれば、厚木市だって人口が増えるはず。小学校を無くすという話ではなく、どうしたら子どもが増えるのかというところに持って行ってもらいたい。

【意見提出用紙による意見等】

(取組の考え方・進め方・スケジュール)

- △ 説明会で示された厚木市が挙げている課題(児童・生徒数の減少、施設の老朽化、教職員の多忙化)はどれも、学校教育の中身とは全く関係ない内容である。厚木市が掲げる基本理念、基本方針に照らしても、「適正規模・適正配置」の基本的な考え方へ繋げることに無理がある。「適正規模・適正配置」の考え方は、小規模校では学校教育に良くないし、建物の管理経費が嵩むので統廃合をします。と言っているようにしか見えない。「適正規模・適正配置」の考え方(数字)は、文部科学省が示す数値に照らして決めているに過ぎず、子育てに魅力のある厚木市になっていない。基本理念を基に、子どもたちが快適に学べるようにそれぞれの環境に応じて特色ある教育環境づくりのアイディアを出し合いながら積極的に取り組み、子育てに魅力ある厚木市を目指すべ

きだと思う。「適正規模・適正配置」の基本的な考え方（数字で決める統廃合）は、一旦置いて、対象校それぞれで子どもたちに有効な教育環境は何かを地域や学校と熟議するべきと考える。

△ 学校の有無は地区の在り方の根幹に関わる問題なので、方策の説明に際しては、十分にメリット・デメリットと今後の課題を説明してほしい。特にアンケート実施に際しては説明を付記してほしい。

△ いかなる理由でも、現時点での統廃合決定に反対する。令和3年3月に終了した適正規模・適正配置検討委員会の議事録を市ホームページで見ると、子どもの人数減少→教員の負担増→統廃合という、統廃合ありきの内容で話を進めているとしか読めない。市としては老朽化した学校施設維持費と人件費の削減をしたくて仕方ないように思える。しかしながら、ここにこそ（オムツ支給など目先の分かりやすい施策よりも）税金をかけるべき。「少ない→潰す」では地域も親も子も不安である。

森の里小・中学校を小規模校のモデル校として、それぞれを小規模特認校として、存続させていただきたい。具体的には1クラス当たり20人弱に人数にあえて減らすことで小・中ともに個々の対応を手厚くする。中学校の部活は周辺の中学校と合同で練習・試合ができるシステムをつくる。など子どものためにできることはまだある。今後、日本はどの地域でも少子化問題に直面していくと思う。厚木市が先駆けとなり、新しい取組をしていただきたい。

（教育環境）

△ 子どもたちにとって、丁寧に見てもらえる今の環境は本当に素晴らしく、簡単に得られるものではないと思う。子どもの人数が減ったから衰退させようとする市の意図が感じられる。

（通学関係）

△ ① 適正配置における望ましい通学距離・時間の上限について、小学生は低学年と高学年に分けて、中学生、小学校低学年、小学校高学年それぞれ毎分何kmで換算するのが妥当なのか、細かく計算してほしい。都心部では子どもがゆっくり歩いた場合を想定して、小学生40m/分、中学生60m/分で試算しているところもある。また、最適な通学時間は30分としている案もある。横浜市や町田市は、徒歩3kmぐらいが上限だったと思う。

また、急こう配があるときの最適な距離、通学時間も細かく試算してほしい（2km以内徒歩、4km以内自転車、4km以上バスという地方もある）。悪天候

(雨、強風、雪、路面凍結) のときも考え、路線バスの許可検討もしてほしい。
危険な道もあるので、希望者は路線バス使用の許可がほしい。

② 玉川中学校前(川のある方)の道は、見通しが悪い交差点で、横断歩道に信号がない。適正配置に合わせ、信号機へ歩道橋の設置を進めてほしい

△ ①小学校は4km、中学校は6kmもしくは徒歩60分という通学距離基準だが地理的に困難な状況がある場合は、適宜見直す必要があると考える。森の里から玉川地区までは急な坂道が続く。平坦な道を60分歩くのと急な坂道を60分歩くのでは、児童への負担も全く異なる。

②体力的な負担だけではなく、急な坂道は安全面でも問題がある。急な坂道は自転車が歩道を非常に速い速度で通るので非常に危険である。雨が降った後などは、道が滑りやすく、坂道は接触事故も懸念される。

③地方では、中学校統合の際、下記のような通学基準を検討しているところもある。「2kmまでは徒歩」「2kmを超え4kmまでは自転車通学」「4kmを超え、6kmまでは路線バス」「4kmを超え、路線バスがない場合はスクールバス」これであれば、通学距離によって生徒間に生じる通学時間格差を減らすのに有効だと考えられる。

④強い雨、強風の日、雪や路面が凍結した日などは、急な坂道はより危険が増す。そのため、森の里地区から玉川地区まで通学する場合は、路線バスの使用および自家用車での送迎を認めていただきたい。

⑤スクールバスは、通学時間だけでなく、安全面からもその運行が望ましい。

⑥また、費用の面から非常に難しいことだとは考えるが、2022年時点、森の里・玉川地区に在住する児童を対象に統合後、小学校は2034年まで、中学校は2037年まで臨時で玉川小学校-森の里小学校間直通、玉川中学校-森の里中学校間直通の送迎バスを運行することを検討していただきたい。一方的に統合された学校側の生徒およびその家族はその通学距離を理不尽だと感じるものと考えられる。もともと、その地区の学校が一つで、通学距離が遠いことも承知の上で入居しているのであれば問題はないが、一方的な都合で片方の学校側の生徒だけが、統合により突然大きな負担を強いられるというのは非常に納得しがたいことだと考える。統合される側の学校の生徒は、何かしらの支援を受ける権利があると考え。もしくは2022年時点、森の里・玉川地区に在住する児童が小学校、中学校を卒業するまで小学校は2034年まで、中学校は2037年まで統合を見合わせることを検討いただきたい。

(地域づくり・地域コミュニティ)

△ リモートワークが普及している中、森の里に移住してくる若いファミリー層はとても多い。そうした中で、もし森の里に小・中学校がなくなると、せっかく若いファミリー層を呼び込むチャンスをなくすことになる。デュアルスクール等の取組を増やして、もっと森の里を対外的にアピールしてもらいたい。

地域からの視点として、

- ・仮に人口減少・少子化が進んでいて、厚木市が隣の市と合併した場合、既存の市役所はやはり地域に対する役割を失うことなく、閉鎖されないと思う。小・中学校も同じ。厚木市として、森の里地区をどのように発展・維持していくのか方針を教えてもらいたい。小・中学校が合併・閉鎖されたほかの地域で、その後人口変化などの地域情報をもらいたい。

生徒からの視点として、

- ・現在は少人数クラスですが、生徒全員が友達。人数が多すぎると逆にグループ化になり交友範囲が狭くなる。(生徒の実意見)

- ・四季の道など、通学路が安全で、不登校の学生もほとんどいない。通学路が遠くなると、安全面が心配。

- ・部活動の選択は少なくなるが、そのための学校合併というのは本末転倒である。部活動より学習環境を最優先すべき。

保護者の視点として、

- ・保護者の負荷が大きくなるとの意見があるが、学校が近所にあるため、決してそういうことはない。逆に学校が遠くなると保護者の負荷が高くなる。

- ・森の里の地域住民は学校教育・活動に非常に協力的なため、文化祭・運動会等の学校活動は問題なく実行されている。

△ 地区の小・中学校がなくなるということは子育て世代の流出、高齢化、ひいては地区の衰退を意味する。適正規模・適正配置という数字で統廃合優先の対象校とされた校区の地域の今後について、その地域に合った打開策や方策に具体的な知恵を絞る姿勢や独自の改革を試みることをせずに一方的に押し進めるべきではないと考える。

森の里地区における学校統廃合の動きは森の里のまちづくりの基本理念に関わり、将来ビジョンを脅かす重大な問題である。学校があり、地域コミュニティがあり、人がいる。地域柄、教育・文化面、自治会活動面、安全安心に暮らせるまちづくりに熱心な住民の多いまちとなっている。全国的な人口減からくる児童・生徒数の減少、教員の不足・多忙から国主導の学校規模適正化や、管理・財政面からの適正配置という方策は、森の里のまちの学校の在り方に馴染むものではない。

このまちには学校が欠かせない。小規模でもデメリットを最小化するアイデアや人材をいかし、地域と共にある森の里らしい学校づくりができないか。保護者、地域住民、自治会やボランティア団体、一致協力し、まちを挙げて学校の在り方について大いに市と対話をするべきと考える。それに取り組むことが可能な潜在能力を持った地域だと考える。

森の里地区は以前より地域と学校が協働してきたが、コミュニティ・スクール採用後は更に熱心に学校環境の整備に取り組み、森の里の特色をいかしたつながり・教育を構築しつつある。地域のため学校のためと尽力できる熱意ある人材が豊富で、また元教師・技術者という知識人も多見される特異な地域である。昨今の教師数の減少・多忙に対して、多岐にわたる雑務の代行、児童・生徒の学習支援に携わるボランティアを今以上にもっと活用できうる地域である。かつて森の里で育った人が子育てを機に森の里に戻ってくるという現象が少なからずある。住み慣れたまちの豊かな自然環境の中で子育てしたい、親元でサポートをうけながら子育てをしたい、という若い世代の傾向である。空き家対策から若い世代の呼び込みを探る動きもある。今後、土地区画整理事業による利便性の向上・雇用の創出により地域の活性化も見込まれる。森の里地区の子育て人口増も起こりうるという未来予測も加味していただきたい。

森の里には歩車分離の四季の路があり安全に通学できる環境であり、顔見知りの地域の方とのあいさつはかけがえのないものであり、友達と走っていける安全な公園もいくつもある。地図上近いからという理由で徒歩では困難をとまなう距離の学校と学校を統合し通学区域を変更することは、近所の良好な交友関係と放課後の外遊びの機会を奪いかねない。幼少期は徒歩圏内の生活圏でのびのび育つ豊かさを叶えてあげたい。地域コミュニティの中で温かく見守られ育った子どもたちはとてもやさしい。地域愛ある森っ子を守り育むことは森の里のまちの持続的存続の糧である。

森の里地区には地域で共に支える住民力がある。一般論ではなく、森の里小・中学校保護者の声、住民の声、ここで子育てをしたいという若い世代の声を聴いていただきたい。

（その他）

- △ 森の里から学校がなくなる（統廃合）に反対。厚木市として子育てを推進しているのであれば、森の里の環境をいかし、他県から若い子育て世帯の方を呼び込む対策を取るべきである。テレワークにより「都会田舎」が注目されている。森の里に小中一貫校を作り、他の地域から人を呼び込むべき。企業ばかり誘致するのではなく、森の里に新しい住宅街を作るのはどうか。